

# ウラン資源

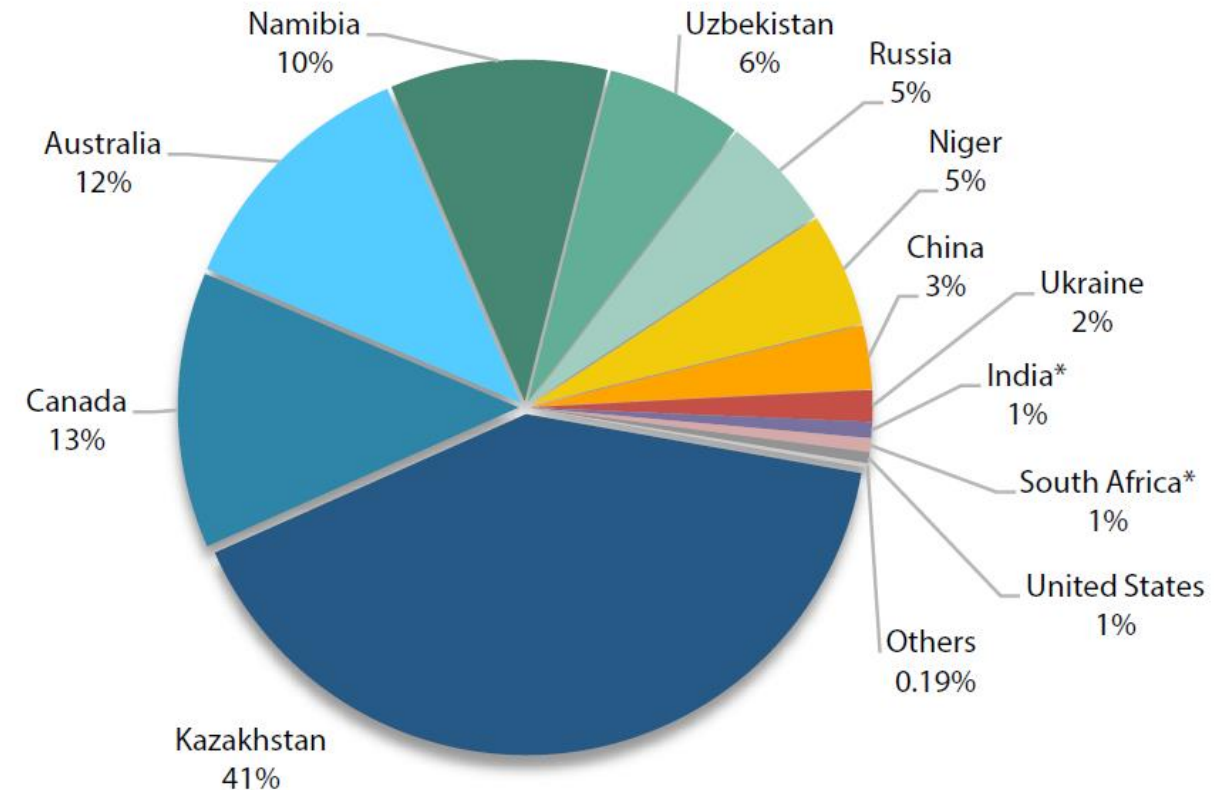
松久保肇(原子力資料情報室)



## ウラン産出国

- 2018年時点のウランの主要産出国はカザフスタン、カナダ、オーストラリア、ナミビア、ウズベキスタンなど。
- 近年、カナダが減産をすすめる一方、カザフスタンで増産が進んだ結果、カザフスタンのシェアは41%に達している。

Figure 1.5. **Uranium production in 2018**

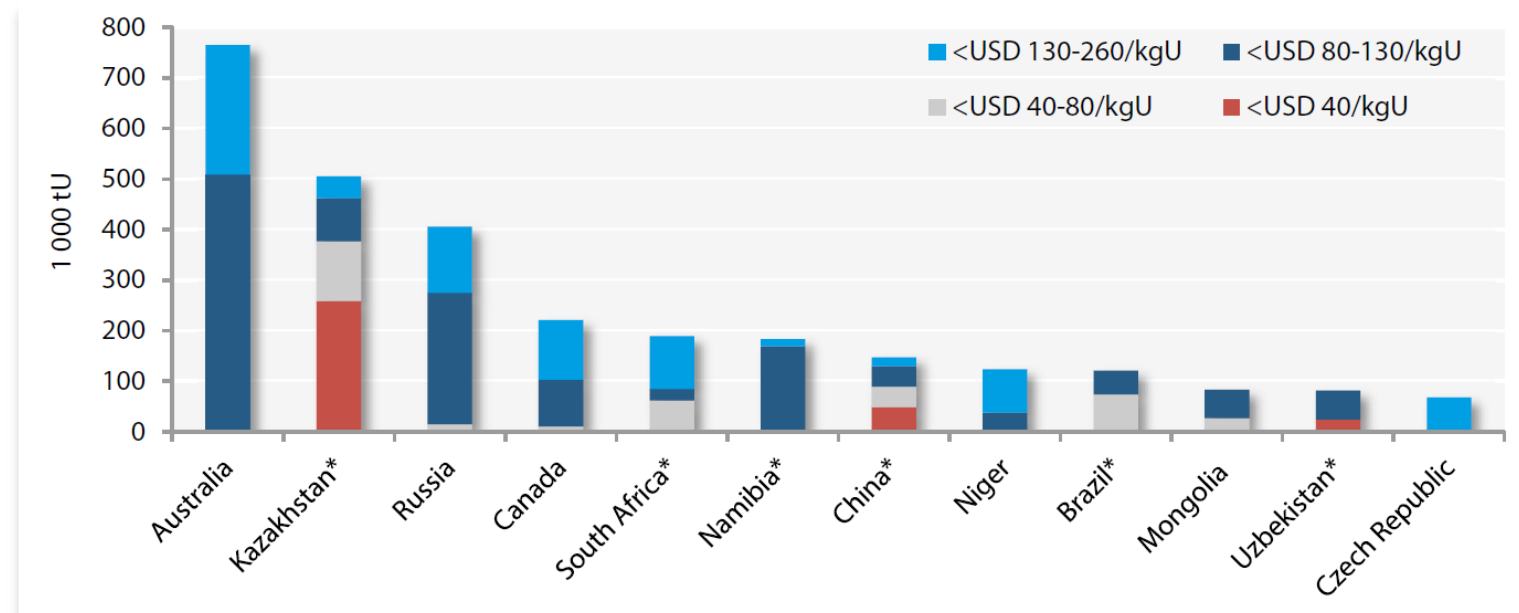


# ウラン資源量

- 130ドル/kgで約100年持つ計算。
- 推定資源量(Inferred resources)では、オーストラリアが最大。ただし多くは先住民居留地区に該当。

採掘可能価格	確認可採埋蔵量	現在のウラン需要約6万トンで何年分か？
<USD 40/kgU	1,080,500	18年
<USD 80/kgU	2,007,600	33.5年
<USD 130/kgU	6,147,800	102.5年
<USD 260/kgU	8,070,400	134.5年

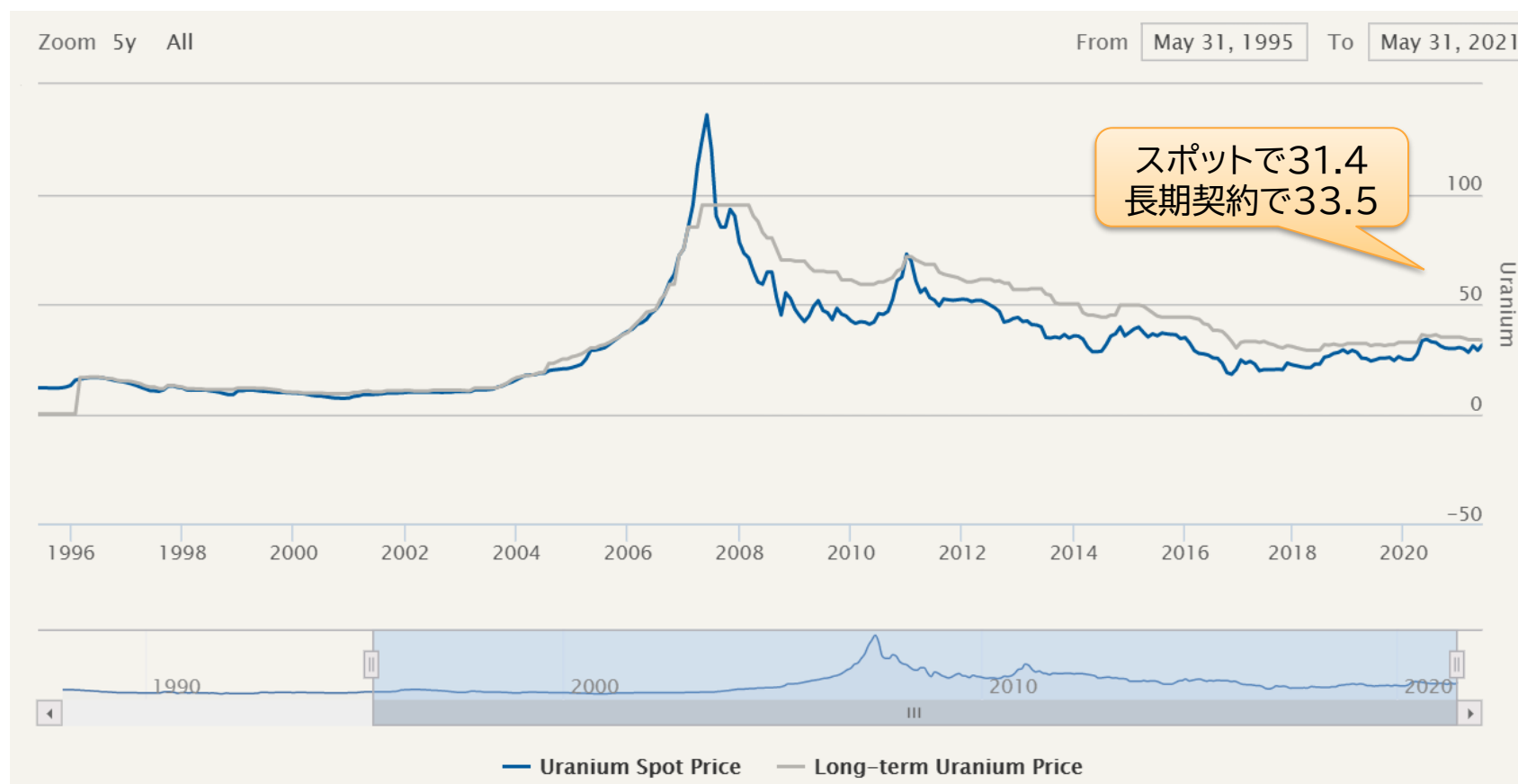
Figure 1.3. **Distribution of inferred resources among countries with a significant share of resources**



\* Secretariat estimate or partial estimate.

## ウラン価格の推移

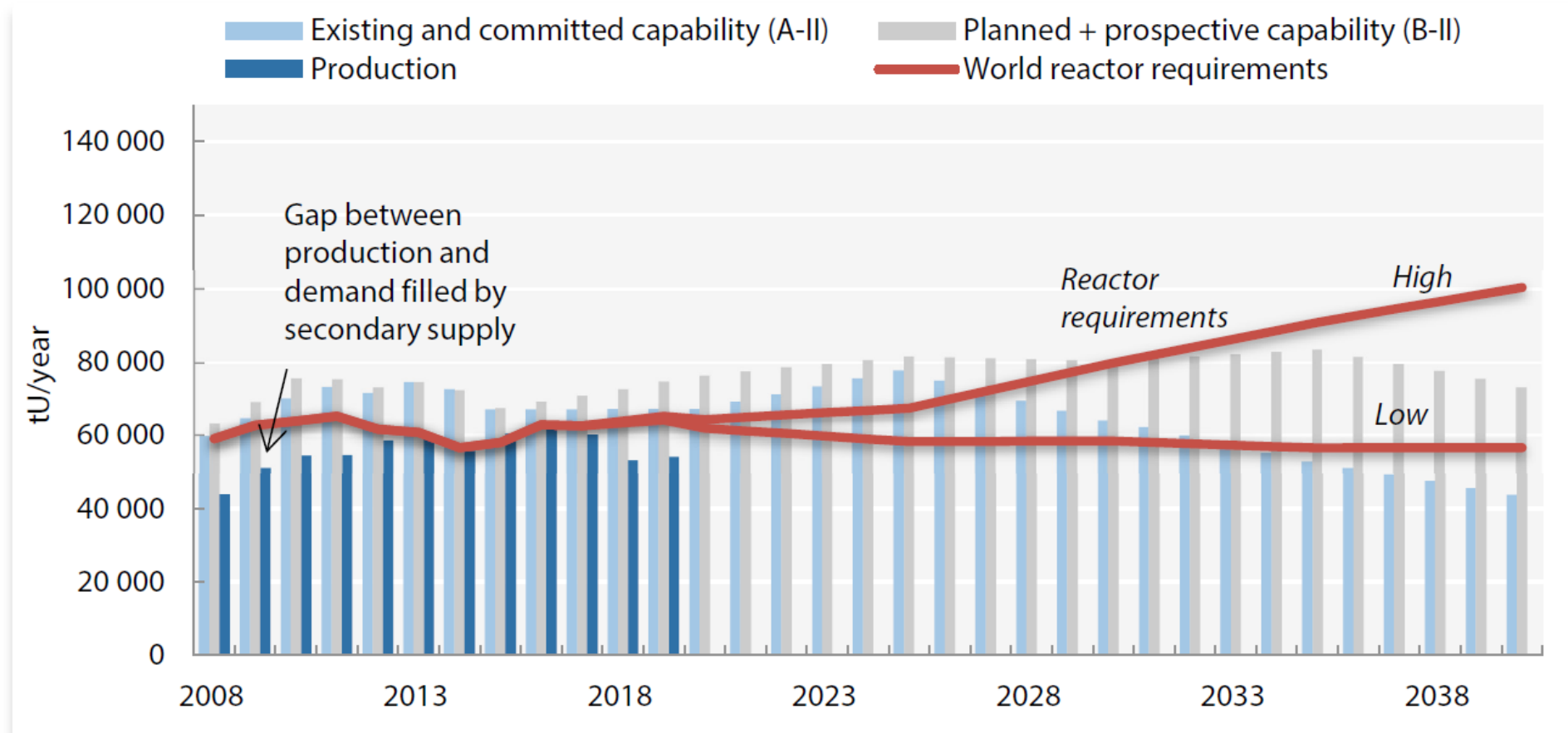
- 近年微妙に値上がり。これは、①大手ウラン鉱山が採掘量を減少、または休止して、スポット市場での調達に動いていること、②SMR関連など原子力への関心の高まり、などが原因として考えられる。
- MiningReview.comによれば、ウランは60ドル/lbなければ、増産のインセンティブにならない。



# ウラン需要見通し

Figure 2.12. **Projected world uranium production capability to 2040 (supported by identified resources at a cost of <USD 50/lb U<sub>3</sub>O<sub>8</sub>) compared with reactor requirements\***

(a) 100% of total production capability



# IAEAの原発発電量予測推移

